

(10) 四 国



四国地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある。

- ・ 鉱工業生産は新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している。
- ・ 個人消費は新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している。
- ・ 雇用情勢は新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

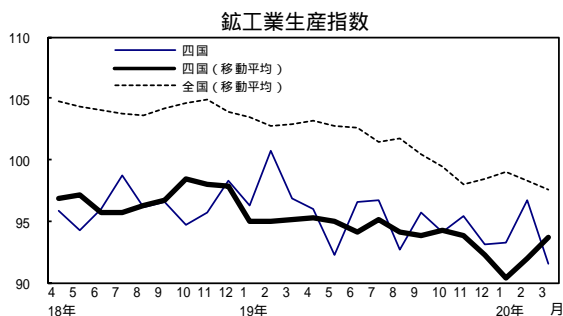
前回からの主要変更点

	前回(令和2年3月)	今回(令和2年5月)
景況判断	足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある
鉱工業生産	弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している
個人消費	足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱めの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している
雇用情勢	改善	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している。

1 - 3月期には、化学・石油石炭製品は、医薬品等が増加したことにより、増加した。食料品は、清涼飲料等が減少したことにより、減少した。電気機械は、減少した。汎用・生産用機械は、増加した。輸送機械は、鋼船等が減少したことにより、減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10 - 12 月期	1 - 3 月期	1月	2月	3月
化学・石油石炭	22.1	13.5	1.4	13.2	25.6	26.0
食料品	13.8	2.9	1.8	0.2	7.0	3.3
電気機械	12.8	2.3	2.3	5.1	1.1	6.8
汎用・生産用機械	11.3	10.6	0.2	9.2	3.1	17.5
輸送機械	7.9	7.0	17.3	2.1	11.4	14.8
鉱工業	100.0	0.4	1.9	3.2	3.0	5.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1 - 3月期、3月は速報値。

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。

2. 全国及び四国の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

2. 個人消費の動向

個人消費は新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

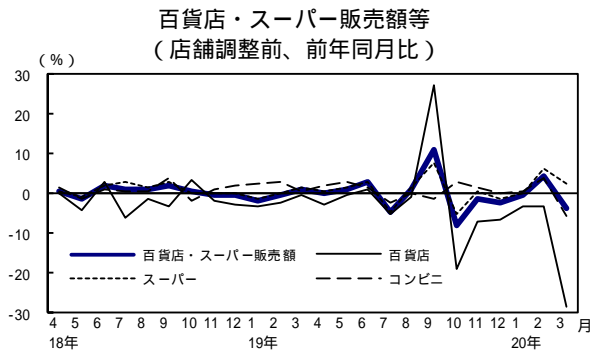
1月は前月比0.6%増、2月は同1.5%減、3月は同0.3%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店は、1月は、衣料品等が減少したことにより、前年を下回った。2月は、衣料品等が減少したことにより、前年を下回った。3月は、衣料品等が減少したことにより、前年を下回った。

スーパーは、1 - 3月期は、飲食料品等が増加したことにより、前年を上回った。

4月は、休業や営業時間の短縮を実施した店舗がみられた。



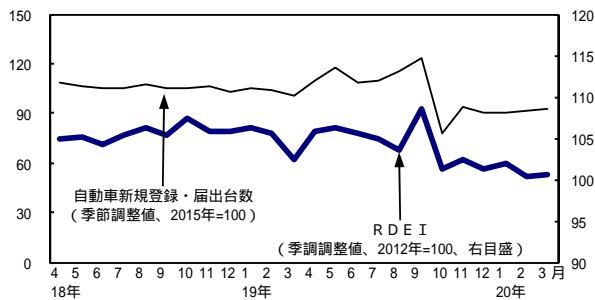
	2020年1-3月	2020年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.7	0.6	1.5	0.3
百貨店・スーパー(*2)	0.2	0.6	4.3	3.6
百貨店(*2)	12.3	3.1	3.2	28.6
スーパー(*2)	2.7	0.1	6.1	2.5
コンビニ(*2)	0.7	0.4	3.7	5.6
乗用車(*3)	10.1	13.3	12.1	6.1
(季節調整値)(*3)	5.1	0.7	1.3	1.5

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移

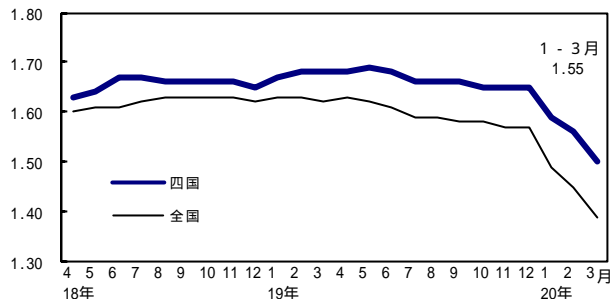


3. 雇用情勢

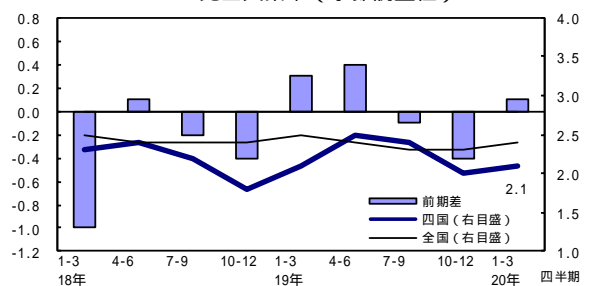
雇用情勢は新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。

(倍) 有効求人倍率 (季節調整値、就業地別)



(ポイント) 完全失業率 (季節調整値)



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和2年4月調査) 景気判断理由の概要

10. 四国

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	×	・新型コロナウイルスの影響で来客、売上共に70%以上減少している。この状況が続けば会社の継続が非常に厳しくなる(衣料品専門店)。
			・新型コロナウイルスの対策で営業時間を短縮し、かつ不要不急のオーダーをお断りしている。ただし、通信利用は継続して行われている(通信会社)。
			・ファーストフード店はテイクアウト需要やデリバリー需要が伸びている反面、レストランの売上が半減し、ショッピングセンターに立地している店舗では休業となっているので、トータルでは前年並みである(その他飲食[ファーストフード])。
	企業 動向 関連	×	・新型コロナウイルスの影響で、海外工場の一時閉鎖や受注の一部に延期等の動きがある(一般機械器具製造業)。 ・家庭用食品(冷凍食品等)や衛生材料向けの受注は増加しているが、一方で観光業(ホテルや土産店)や自動車関連は受注が激減している(化学工業)。 ・公共工事や民間工事共に、新型コロナウイルスの影響の度合いが分からない(建設業)。
雇用 関連	×	・4月の緊急事態宣言以降、観光や飲食、サービスに係る業種では、軒並み売上、利益共に落ち込み、つなぎ融資や従業員の解雇でやり過ぎしているところが増加している。周辺企業へのヒアリングから、閉店や倒産もかなりの件数が出てくると考えている(求人情報誌)。	
その他の特徴 コメント			：政府の緊急事態宣言以降、冷凍食品や生鮮食品などの家庭内食材の売上が伸びている(スーパー) ×：新型コロナウイルスの影響で外出や外出の自粛があり、飲食店への納入が減少した上、今月中旬以降は緊急事態宣言で飲食店が休業し始め、店頭売りがほとんどない当店で売上が激減している(一般小売店[酒])
先行き	家計 動向 関連	×	・新型コロナウイルスの影響で今後の収入が大幅に減少すると予想する人が多いため、必要な物以外の購入には慎重になっていく(乗用車販売店)。 ・5月の連休も休業する店がかなり多い状態である。早く終息へ向かっていかなければ、人出は期待できないし、いつ景気が底を打って上昇するか、めどが全く立てられない状態である(商店街)。
			企業 動向 関連
	雇用 関連	×	・今後は大企業においても人員削減が進み、失業者の増加が懸念される(職業安定所)。
	その他の特徴 コメント		

(DI) 現状・先行き判断DI(四国)の推移(季節調整値)

